

大谷氏重子王毛

広島大学原爆死没者追悼式



1分間の黙とうを捧げる参列者

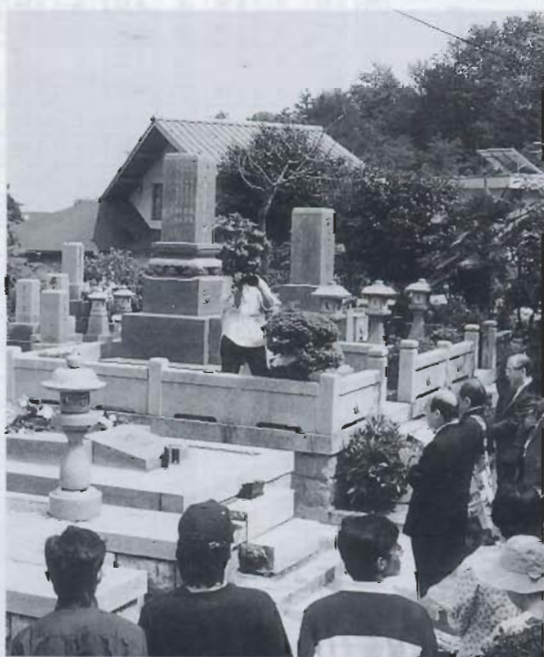


広島大学原爆死没者追悼之碑碑文

広島に原爆が投下されて、四十八年目、広島大学原爆死没者追悼之碑が建立されて十九年目を迎える今年も、八月六日、広島大学大学会館中庭の追悼之碑の前で、原爆死没者追悼式が行われた。

追悼式には、遺族及び同窓会代表並びに学長をはじめ部局長等学内外の関係者約百名が参列し、千二百九十二名の霊前において、死没者名簿の奉納、黙とう、学長の式辞、献花及び献水がおごそかに執り行われた。

今年、広島大学原爆死没者調査委員会の調査の結果、二十六名の死没者が判明し、追悼之碑に合祀した。式典に引き続いて、旧理学部横の「広島文理科大学・広島高等師範学校 原爆死没者遺骨埋葬の地」の石碑に関係者が参列して、献花及び献水を行った。



ニック・ユソフ氏が眠る光禅寺の墓所

故ニック・ユソフ氏墓前法要

原爆死没者追悼式終了後、佐伯区五日市町の光禅寺では、故ニック・ユソフ氏の墓前法要が執り行われた。原田康夫学長をはじめ、三好信浩学生部長、世話人の歯学部菅野義信教授、マレーシアからの留学生、ユソフ氏にゆかりの方々約二十名が列席し、ユソフ氏の冥福を祈った。

当時の広島文理科大学では、「南方特別留学生」として東南アジア諸国からの留学生を受け入れており、「あの日」九名が被爆し、まもなく二名の若者が亡くなった。ユソフ氏は、原爆で破壊された興南寮のがれきからはい出たあと、「大学へ向かう」といったまま行方不明になった。その後、五日市町に住む消防夫が、光禅寺の住職のところに三つの遺骨を持参し、保管するように依頼した。そのうちの二つにニック・ユソフと書かれた紙が貼ってあった。

現在は、広島大学原爆死没者慰霊行事委員会により、故ニック・ユソフ氏の墓が建立されている。